



杉戸中央ロータリークラブホームページ <http://www.sugito-chuo.com>

第807回 例会2010. 11. 27

「がんのひみつ」講演会 すぎとピア 15:00～

PTA のお母様たちからなる「がんのひみつの会」にご協力いただき、午前中から準備を始めました講演会がよいよスタートです。



講演会

タレント 向井亜紀様

壇上に現れた向井亜紀さんは、「皆さん、今私が現れたとき、どよめきましたね!? 大きい!!と思ったでしょ?」とおどけて見せ、ご自分の身長体重をにこやかに公表されました。芸能人が登場するという緊張感にあふれた会場をみごとに和ませた瞬間でした。ご存知のとおり、向井さんはがんのために2度も大変な手術を受けています。そんなご自身の体験から、健康を過信せず、自分の体と常に対話していくことの大切さを、数々のエピソードを交えてお話されました。「人は年齢を重ね



るごとに、外見だけではなく体の内側もなんらかのトラブルが出てきます。その体の SOS を見逃さないで下さい。」と言った向井さんの言葉は、大病を乗り越えてきた人ならではの言葉でしょう。そして、「まず、自分の体を『かわいい』『いとおしい』と思ってください。体に入ってくるウイルスや毎日生まれてくるがん細胞と日々戦ってくれているのです。そんな体のシグナルに耳を傾けてあげてください。」と何度も仰っています。健康は失ったときに、その大切さに気づくと言いますが、身をもって痛感された向井さんだからこそ、私たちの胸に響くようなお話が出来るのだと思います。がん予防に対する向井さんの今後のご活躍に期待しております。

講演会

東大医学部准教授 中川恵一様

「知っていますか？サザエさんのお父さん、波平と郷ひろみは、54歳で同い年なんですよ。ビックリですよ〜。」と言って会場を笑わせたのは、東大病院の放射線科准教授・緩和ケア診療部長、がん治療の第一人者ともいえる、中川恵一先生です。先生は大変な肩書を持ち、TV(世界一受けた授業)や新聞雑誌の連載で活躍されていますが、その軽快なお話ぶりとユーモアでつい暗くなりがちな『がん』の話を前向きにさせ検診に行こうという気持ちにさせてくれます。



日本人は、2人に1人が『がん』にかかり、3人に1人が『がん』で亡くなっている世界一のがん大国なのだそう。それは、世界一の長寿の国であるということと、『がん』に対する正しい知識と教育がなされていないからです。私たちは、『がん』に対する漠然とした恐怖を感じているものの、『がん』についてあまりにも知らなすぎるのです。

がんの原因ですが、遺伝によるものは約5%、そして最も大きな原因は、たばこです。しかし、日本では学校でがんの教育をしないので、今でも子どもの前で平気でたばこを吸う人が多いですね。お酒もいけません、これは他人に迷惑はかけませんので、がんになっても自業自得です。たばこがいけないのは、奥さんや子どもにもがんのリスクを背負わせることです。

皆様ご協力ありがとうございました



しかし、やっかいなことに聖人君主のような人でもがんになります。もうこれは、運が悪いと言うほかありません。では、がんで死なないためにはどうしたらよいのか。それは、がん検診しかありません。がんは毎日5000個できており、それを免疫細胞が殺しています。しかし年とともに異物として認識しなかったがん細胞(見逃した)がでてきます。それが増殖していったことよって発病となります。1センチのがん細胞は15億の細胞からなっており、がんとして認識されるのに10年以上かかるのです。しかし、それが10センチになるのに5年かかりません。ですから、『がん』を初期の状態で見出すために検診が必要なのだそうです。

そしてがんの治療ですが、先進諸国ではがん治療の8割が放射線、2割が外科手術なのに対し日本では、その逆で8割が外科手術です。乳がんや子宮頸がんも欧米では、ほとんど放射線治療で温存治療ですが、日本では、ほとんど外科手術で摘出します。その理由は、恐ろしいことに医者が知らないからです。「日本人にとって『がんを知る』ことは、今とても大切です。『がんになる前にがんを知る』ことが、正しいがん医療を受ける基本になると中川先生は、語ってくれました。

私たち日本人は、子宮頸がんのみならず、がん全体について学ばなければなりません。そういった意識の向上が、結果的にがん検診の向上結びつきがんを予防できるのです。

※中川恵一先生は、PPを使い映像やグラフでがんを分かりやすく説明して下さいました。その1部をご紹介いたしました。

